

## お わ り に

特別支援教育研修課では、平成13・14年度に「特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導の在り方に関する研究」、平成15・16年度に「個別の指導計画に基づく授業の在り方に関する研究」を主題にして研究を進め、平成17年度から、「特別な教育的ニーズにこたえる総合的な支援の在り方に関する研究」について3年間取り組んでまいりました。

1年次は、幼稚園・小学校・中学校における支援体制、幼児児童生徒への気付きに関する実態調査、及び特別支援学校のセンター的機能の推進の状況、特別支援教育コーディネーターに関する実態調査を行いました。調査結果から、小・中学校等における特別支援教育推進上の課題として、校内支援体制や、家庭や関係機関との連携による「組織的な支援」、一人一人の教育的ニーズに応じた「具体的な支援」が十分になされていないことが把握できました。また、特別支援学校では、特別支援学校のセンター的機能を高めていくための校内の組織体制づくりや、関係機関とのネットワークづくり、地域のニーズにこたえていくための、教員の意識改革や資質の向上が課題であることが分かりました。

2年次からは、実態調査による現状と課題に基づき、校内支援体制の在り方を中心に研究を進めました。そして、3年次で、県内の実践例を整理し、本県や各学校の状況に応じた、個別的・組織的・継続的な支援体制の在り方について明らかにするとともに、具体的な指導や支援に関するこれまでの当課の研究成果を改めて見直し、特別な教育的ニーズにこたえる総合的な支援の在り方について、研究紀要第112号としてまとめました。

一人一人の特別な教育的ニーズにこたえていくためには、一人の教員の理解・指導・支援だけでなく、「みつめよう一人一人を 支えようみんなで」の理念で、学校・地域・家庭との連携による総合的な支援が重要です。しかしながら、各学校や地域を取り巻く環境は様々であることから、それぞれの学校・地域の実状に応じた支援体制や、関係機関などとの連携による組織的、継続的な支援体制の在り方の検討が必要となります。

そこで、本研究では、学校種や学校規模に応じた支援体制の在り方についてモデルを示したり、実践例を紹介したりすることで、それぞれの学校等の実状に応じた支援体制や連携の在り方に関する参考となるようまとめました。

また、実態調査から浮かび上がったもう一つの課題である、「具体的な支援」の在り方については、「聞く」「話す」「読む」「書く」などの領域別に、つまずきの状態、その背景要因、具体的な支援例、行動観察のポイントについてまとめておりますので、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援に役立てていただければ幸いです。

当課としましては、来年度以降は、各学校における指導・支援の一層の充実を図るため、一人一人の成長・発達を見通した授業の在り方について研究を深めていきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究を進めるに当たり、アンケートに御協力いただきました各学校、実践事例を提供していただいた先生方、その他関係機関の皆様方に心からお礼を申し上げます。